



昨年の廃プラの輸出量が出た。08年の後半に

は、1キ
当たりの
単価が10

月1153円、11月1143
円、12月1135円と、
毎月10円くらいずつ

下がっていった。ちな
みに、04年の年間の
平均が34円だった
ことから、4年ほど
前に戻ったと見るこ
ともできる。

00年以降は、廃プ
ラ輸出は年々、20%

程度は伸びていっ
た。00年は30万ト、
01年は39万ト、02年
は55万トと増やし、
05年にはついに初め
て100万トの壁を
大きく超える、10
6万トの輸出量にな

った。このときの単
価は、まだ41円だっ
た。

翌年の06年からP
ETくずが「その他
廃プラ」とは別に、
計上されるようにな
った。最初のときの
PETくずの輸出量
は、27万ト。単価は、
いきなり50円で、輸

出の樹脂くずの種類
では一番高い値を付
けた。

この年、06年輸出
量は、130万トで、
単価は平均47円とな
った。この頃から、
PETくずは、各地
で目を付けられるよ
うになってきた。中
国人バイヤーが熱心

にヤードにやってき
て、PETボトルの
直接交渉するように
なってきた。

廃プラ輸出の最大
の国は、中国である
ことはいうまでもな
いが、中国には、中
国本土と香港という
2つの窓口があり、
中国は、これをうま

く使い分けてきた。
05年の廃プラ中国輸
出がストップしたと
きも、香港にはいま
で以上に輸出されて
いた。中国は、生活
必需品として、プラ
スチック製品には力
を入れており、原料
確保は、廃プラを中
心に確実にやってい

る。世界の7割の廃
プラが中国にやって
きている計算だ。
今、原油の掘削量
は、国際不況や温暖
化防止の影響もあ
り、調整減少に入っ
ている。従って、廃
プラ需要は高くな
り、雇用拡大の面で
も、重要な鍵を握っ

てい
る。世界同
時不況の
嵐が吹き
荒れる今、不況を乗
り越えたときに、ど
のような社会を構築
しているのか、ビジ
ョンのあるなしが問
われている。廃プラ
再生ビジネスは、間
違いなく循環型で、
低炭素型社会の構築
に必要な雇用拡大型
事業といえる。(渡)

廃プラ再生事業は雇用拡大